


障害別の職業的課題、就労支援上の 留意点

20241223_茨城県

星明聡志

社会福祉法人北摂杉の子会ジョブジョイントおおさか

目次



○	自己紹介
○	知的障がい、発達障がいについて
○	精神障がい、高次脳機能障がいについて
○	自己理解への支援
○	さいごに…

知的障がいについて

障がいの種別と特性

障がい者手帳とは、障がいのある人が取得できる手帳

手帳を取得することで、障がいの種類や程度に応じて様々な福祉サービスを受けることができる
(申請：お住いの市区町村の障がい福祉の窓口)

身体障がい

身体(運動)機能の障がい

- 視覚障がい
- 聴覚障がい
- 言語障がい
- 内部障がい 等

- 根拠法：身体障害者福祉法
- 手帳：身体障害者手帳
- 等級：1級～7級

知的障がい

知的発達の障がい

- 言葉の遅れ
- 学習の遅れ
- 理解力や注意の遅れ

- 根拠法：知的障害者福祉法
- 手帳：療育手帳（大阪府）
- 等級：重度（A）、中度（B1）、軽度（B2）

発達障がい

発達の遅れではなくアンバランスさ

- コミュニケーションの特性
- 社会性の特性
- 想像力の特性
- 感覚の過敏さ、鈍感さ

- 根拠法：精神保健福祉法
- 手帳：精神障害者保健福祉手帳
- 等級：1級～3級

精神障がい

精神疾患の発症による社会生活の支障

- 統合失調症
- 気分障がい(うつ/躁鬱)
- てんかん
- 高次脳機能障害 等

知的障がいとは

- 正式名称

- 神経発達症群に含まれる「知的発達症」（「知的障がい」は行政用語）

- 知的障がいの定義

- 主な定義：発達期に生じること、知的機能が低いこと、適応機能が低いこと
- 重症度は、「概念」「社会性」「実用」の3領域で総合的に検討
 - 概念：読み書きや記憶、計画を立てること、知識の習得など
 - 社会性：対人関係やコミュニケーション、社会的な判断など
 - 実用：日常的な生活習慣や、余暇活動、学校、職場での課題への取り組み方など

- 名称変更の歴史

- 1952年DSM第1版（精神疾患・精神障害の分類マニュアル）では「精神薄弱」
- 第2版からは「精神遅滞」、2013年の最新版DSM第5版では「知的発達症」に名称変更

- 原因

- 3つの要因（①特発性要因、②病理的要因、③心理社会的要因）があるが、①に該当するケースがほとんどである

出典：本田秀夫（2023）「知的障害と発達障害の子どもたち」,SB新書

知的機能、適応機能とは

- 知的機能とは
 - 「論理的思考、問題解決、計画、抽象的思考、判断、学校での学習、および経験からの学習」によって構成される（DSM第5版より）
 - DSM-5では、言語理解、ワーキングメモリ、感覚的推論、量的推論、抽象的思考、認知能力に力点が置かれている
- 適応機能とは
 - 「個人の自立や社会的責任という点でコミュニティの標準を満たせるかどうか」（DSM第5版より）

知的機能の主な内容

言語理解

- 聞き取った言葉や読んだ文章の意味を理解し、情報を処理する能力
 - 話し言葉や文章の主旨を把握する
 - 語彙力、文法力
 - 比喩や隠喩を理解する、長文読解

ワーキングメモリ

- 一時的に情報を保持し、同時に他の認知活動を行う能力
 - 話を聞きながらメモをとる
 - 複雑な計算問題を解く
 - 指示を聞きながら作業を行う

感覚的推論

- 五感から得られる情報（視覚、聴覚、触覚など）を統合し、意味を理解する能力
 - パズルや地図を読み解く
 - 物体の形状や大きさを視覚的に判断する

量的推論

- 数や数量に関する概念を理解し、計算や問題解決を行う能力
 - 足し算、引き算、掛け算、割り算
 - 単位換算グラフや表を読み解く

抽象的思考

- 具体的な事象から一般化された概念や規則性を理解し、応用する能力
 - 比喩や隠喩を理解する
 - 抽象的な概念（正義、自由など）について考える
 - 問題解決のための戦略を立てる

認知能力

- 上記の全ての能力を包括する概念
 - 学習能力
 - 問題解決能力
 - 判断力
 - 推論能力

具体的な特徴

- **言葉**がなかなか覚えられない
 - 指示代名詞が多い（これ、あれ、それ等）
 - 会話のすれ違い
 - 遠回りの表現が多い、まわりくどい表現が目立つ
- 物事を**記憶**しておくことができない
 - ワーキングメモリの問題
 - たくさん覚えられない
 - 長い時間覚えることができない
- **動き**がぎこちなく細かい作業が苦手
 - 手足の動きがスムーズではない
 - 指先がうまく使えない
 - 左右にふらつきやすい

「やればできる」の誤解

(事例として)

- 学校や職場
 - 授業にワンテンポ遅れる
 - 宿題が他の子どもより倍以上時間がかかる
 - 作業の手順やルールが覚えられない
 - 何度やっても作業が雑になる
- コミュニケーション、社会性など
 - 自分の考えをうまく伝えることができない
 - 何回も伝えても理解できないことがある
 - 我慢ができなかったり、感情がうまくコントロールできない

- 「やればできるんだから！」の関わりではうまくいかない
- 知的障がいは、知的機能の遅れと低さがある
- ゆっくり成長することもあるれば、他の人と同じだけできるようになるとは限らない

環境との相互作用による情緒の乱れ

- 思春期や青年期などにおいて情緒が乱れることがある
 - 他者への暴力や暴言、自傷行為
 - ひどく落ち込む
 - こだわりが強くなる 等
- これらは、いわゆる「二次障害」
- 環境との相互作用（相性）によって起こることが多い

- 学校や職場は、本人にとって安心できる環境か？
- 勉強や仕事で困っていないか？ 過剰に努力していないか？
- 予定や先のことに見通しが持てず、混乱していないか？
- 周りに苦手な人や特性を理解してくれない人はいないか？

視覚的な支援が有効

音は消えていく

- 音として発せられる **ことばは瞬間的**
- 言われていることに気づきにくい
- 気づいたとしても、聞いた音を順を追って理解する必要がある

視覚情報は消えにくい

- **文字で示された情報は残しておくことができる**
- 何度も繰り返して見直し、確認することができる
- 見直すことで理解できることも増えていく

聞いて理解よりも、見て理解

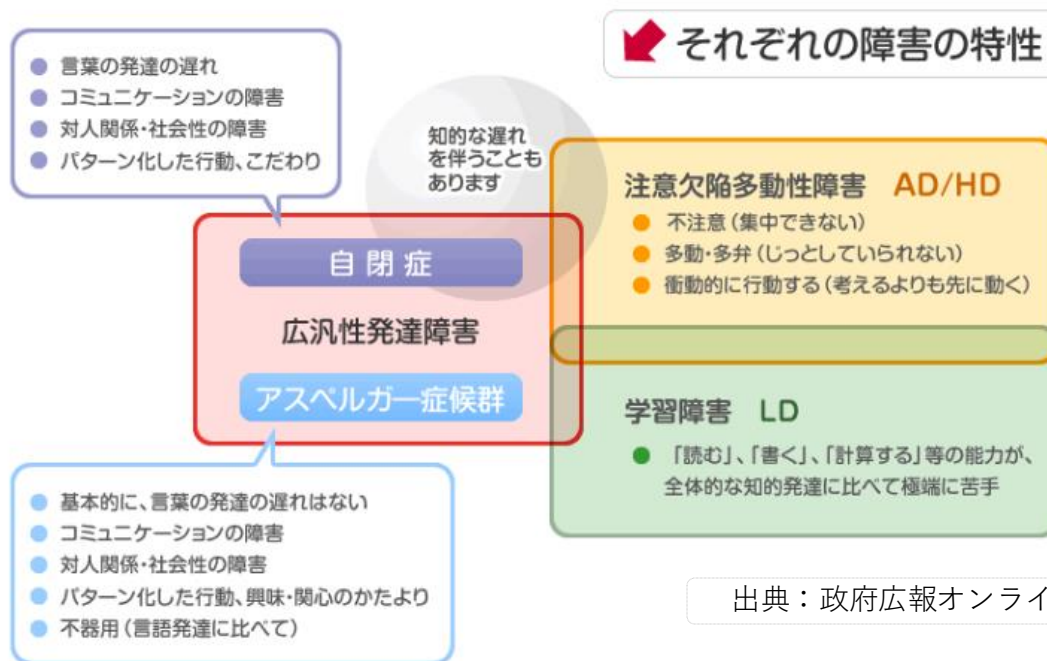
- 知的障がいのある人の場合、ことばを音として認識はできる
- ただ、ことばから意味を取り出すことができにくいことがある
- 聞いて理解するよりも見て理解する情報処理の方法が優位
- **写真や実物を見ることで理解できることは多い**

出典：知的障害や発達障害のある人とのコミュニケーションのトリセツ（坂井聡）

発達障がいについて

発達障がいとは

- 先天的な脳機能の障がい
 - 中枢神経系の何らかの機能不全で起こると推定されている
 - 親の育て方やいじめ、本人の努力不足、性格上の問題ではない
- 発達の「遅れ」ではなく、「**偏り**」があるのが特徴
 - 能力のバランスに偏りが出る、**周囲の環境によって特性が大きく変化する**



出典：政府広報オンライン

※発達障害者支援法※ （2004年12月施行）

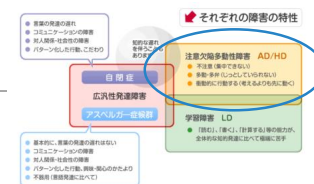
発達障害者の定義と社会福祉法制における位置づけを確立し、発達障害者の福祉的援助を実現するため、以下の内容を明文化。

- ①発達障害の早期発見
- ②発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務
- ③発達障害者の自立及び社会参加に資する支援

障害の早期診断・療育・教育・就労・相談体制などにおける発達障害者支援システムの確立を目指す法である。

注意欠如多動性障がい（ADHD）

* ADHD：Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder



不注意優勢型

多動性・衝動性は目立たず、
不注意症状が目立つタイプ

多動性・衝動性 優勢型

注意集中困難は目立たず、
多動性・衝動性が目立つタイプ

混合タイプ

不注意・多動性・衝動性を
併せ持つタイプ

・ 不注意

- ・ 細かいところまで注意を払えない、不注意な間違いをする
- ・ ミスや抜け漏れが多く、ケアレスミスが多い
- ・ 直接話しかけられた時に、聞いていないようにみえる
- ・ 課題や活動を順序立てて行うことがむずかしい
- ・ 課題や活動に必要な物をしばしばなくす、忘れる

・ 多動性・衝動性

- ・ 手足をそわそわ動かしたりじっとしていない
- ・ 別の作業がきになるとそちらに手をつけてしまう
- ・ 過度にしゃべる、思ったことをすぐに発言してしまう
- ・ カチンとくると怒りがうまく抑えられない
- ・ ミスをする事で少しのことで大きく落ち込んでしまう

学習障がい (LD)

* LD : Learning Disorders/Learning Disabilities



読字障害

文章を正確に読んだり、
理解することに難しさがある

書字表出障害

文字や文章を書くことに
難しさがある

算数障害

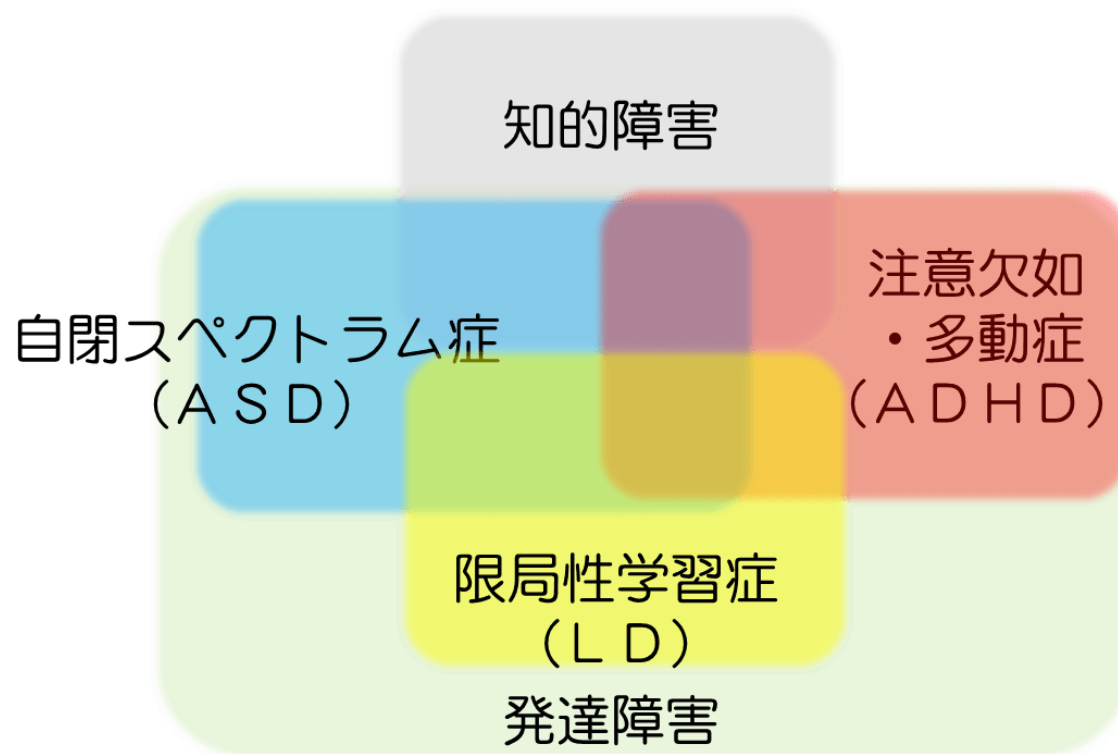
数を使った概念の理解や計算に
難しさがある

- 聞く
 - たくさんのことを言われると頭の中から抜け落ちてしまう、
 - 理解するのにしばらく時間がかかる
 - 話し合いがむずかしい(話し合いの流れが理解できずついていけない)
- 話す
 - うまく言葉にまとまらない、口頭でスムーズに必要なやり取りが難しい
 - 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい
- 読む
 - 音読がおそい、勝手読みがある(「いきました」を「いました」と読む)
 - 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返して読んだりする
- 書く
 - その場でメモを取るのが難しい、書くスピードが遅い、
 - 独特の筆順、文字をうまく形取って書けない
 - 読みにくい字を書く
 - (字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)
- 計算する
 - 数に関係すると途端にミスが増える
 - 学年相応の図形を描くことが難しい
 - (丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)

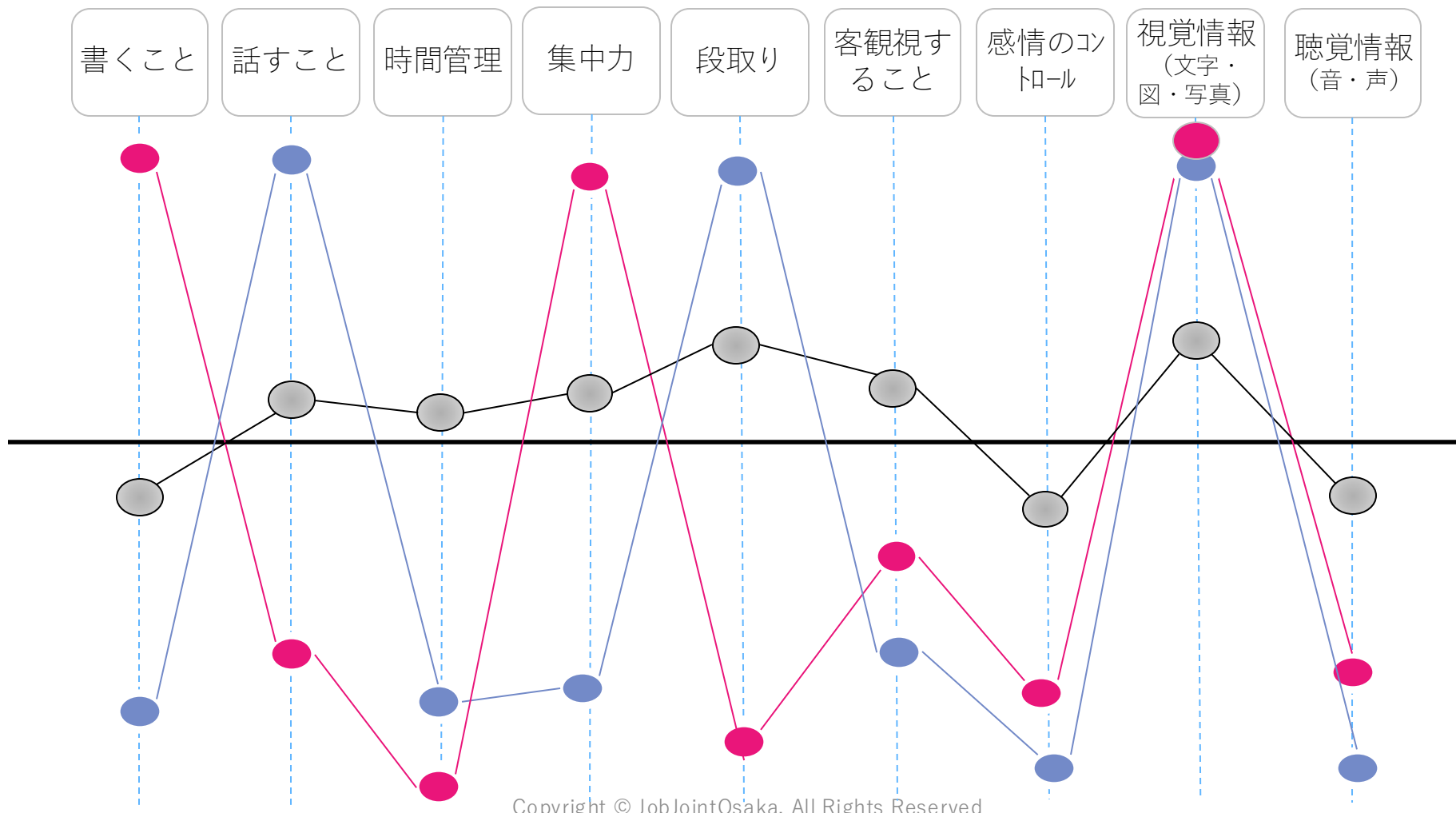
< 出典 > 支援者のための 発達障がい者支援ガイドブック ～成人期版～
発行：大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか

発達障がいと知的障がい

- それぞれの症状は、重なり合っていることが多い
- 発達障害は、「知的障害を伴う」場合と「知的障害を伴わない」場合がある



個々によって多様な偏りがある (例として)



自閉症、発達障がいの特性

社会性の特性	社会の常識や暗黙の了解が読み取りにくい 人の気持ちや感情が読み取りにくい 場や状況にそぐわないことをしてしまう 礼儀や敬語を状況に応じて使うことが難しい
コミュニケーションの特性	ひとりで一方的に話してしまう 独特の言葉の使い方をする 抽象的な言葉を理解しにくい 字義通りの理解する、偏った解釈をしやすい 長い説明や話は聞きにくい（頭に残らない） ジェスチャー、うなずき（相づち）、表情などをうまく使えない
こだわりと想像力の特性	目に見えないことを想像することがむずかしい （相手の気持ち（心）、未経験（初めて）なこと、変化変更、時間 など） 同じ行動（儀式的な行動）やパターン・決まった手順になりやすい ルールに厳格・間違いや例外が許せない 興味関心が狭く、特定のことにしか楽しめない 気持ちの切り替えが苦手 時間の流れがイメージできない、計画が立てられない 初めてのことや急な変更は、混乱しやすい
感覚面の偏り	五感が過敏、あるいは鈍感 疲労や空腹、尿意の感じにくさがある（個人差がある）

見えないことを想像する難しさ

- 見えないこと
 - 相手の気持ち（心）、未経験（初めて）なこと、変化変更、抽象的なこと 等
- 時間の管理
 - 予定やスケジュールを忘れてしまう
 - 朝起きれない
- 同時並行処理（マルチタスク）
 - 聴きながらメモをとることができない
 - 学校生活、料理、接客など
- その他
 - 完璧を目指してしまう（0 or 100）
 - 優先順位がつけられない
 - 忘れ物が多い
 - 失敗を引きずる、ひどく落ち込む



学習スタイルの「ちがい」を理解する

学習とは、経験を通じて知識や環境に適応する態度・行動などを身につけていくこと。
発達障害のある人の「学習スタイル」を正しく理解することがポイント。

得意なこと	苦手なこと
<ul style="list-style-type: none">➤ ひとりで取り組む➤ 目で見えて理解する➤ 具体的なこと、はっきりしたことの理解➤ 経験したことはよく覚えている➤ いつも同じやり方でする➤ その場で学習したことをきちんとやる➤ 律義さ、几帳面さ➤ 細部に注目して、1つ1つ取り組む➤ 好きなことに没頭する➤ 感覚の過敏さ・鈍感さ	<ul style="list-style-type: none">➤ 集団で取り組む➤ ことばを聞いて理解する➤ 抽象的なこと、あいまいなことの理解➤ 経験していないことを想像すること➤ 柔軟な思考➤ 別のやり方を探す臨機応変さ、➤ 応用や般化すること➤ 全体を捉えて、関係性を把握する➤ 計画的にバランスよく取り組む➤ 感覚の過敏さ・鈍感さ

好むこと・得意なことを活かす

👉 秩序だって伝える

わかりやすい整理された環境や物事、流れが好き

👉 視覚的で、明確で具体的なこと

標識や絵・写真等一目で見て分かるものが好き、可視化して伝える

👉 慣れ親しんでいること

前に経験していることや手続きは得意、ルーチン・習慣化が得意

👉 狭く深い興味関心・長所を活かす

興味のあることは意欲的、特定の高い知識力を生かす

👉 肯定的な伝え方が有効

否定的な言い方は混乱を招くだけ、「～してはいけません」はNG

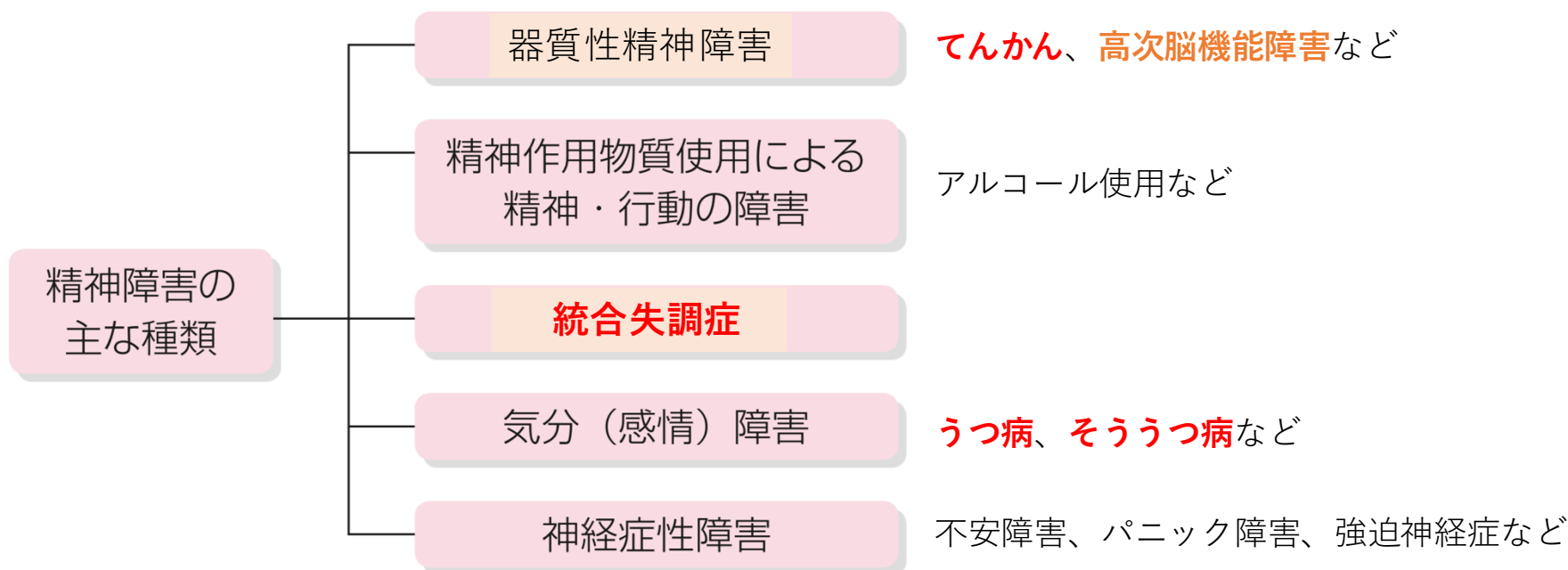
精神障がいについて

精神障がい「種類」

全国における精神障害のある人は、約392万人。

中でもうつ病などが増加傾向にあります。長引く不況や生活不安、人間関係のストレスなどが原因と考えられ、今は誰もが心の病衣国になってもおかしくない時代なのかもしれません。

何らかの精神疾患があると、長期にわたって日常生活や社会生活への制限があります。



出典：精神障害者雇用管理マニュアル（高齢・障害者・求職者雇用支援機構）

精神障がいの「症状・特性」

統合失調症

- 幻聴、妄想
- 意欲の低下、感情表現が少なくなる
- 動作が遅い、疲れやすい
- 記憶や注意力、判断力が低下する

気分障がい

うつ病

- 気分が落ちこむ、不眠、不安感、食欲低下
- だるい、マイナス思考

そううつ病

- 「うつ状態」「そう状態」を繰り返す
- 「そう状態」では、気分が高ぶり、考えが飛躍しがち
- 落ち着きがなくなり、口数も多くなる

てんかん

- 急に動きが止まってぼんやりする
- 手や顔の一部がピクピクする
- 倒れて全身を痙攣させる

出典：精神障がい者と一緒に働く HAND BOOK（大阪府）

精神障がいの「接し方、対応方法」

統合失調症

- 服薬で「手の震え」「眠気」「体のこわばり」「運動機能の低下」などの副作用もある
- スローペースで段階を踏んで取り組める作業が向いている
- 一旦休んでもらうなどの配慮も

気分障がい

- 細かな変化を見逃さない
- 「遅刻が増える」「ミスが多くなる」などの変化あればまずは声かけを
- たくさんの仕事を与えず、様子を見ながら徐々に増やしていく

てんかん

- ヒアリングして、服薬・睡眠の確認
- 心身ともにストレスがかからないように
- 高所作業、運転、危険な機械作業は、注意が必要

出典：精神障がい者と一緒に働く HAND BOOK（大阪府）

精神障がいの「働き方、工夫」

短時間から

- 新しい環境や人間関係に慣れるまで緊張し、疲れやすい
- 短時間勤務からスタートし、徐々に時間を増やしていく
- (例:週10～15時間から少しずつ勤務時間を増やすなど)

ストレス

- 強い口調での叱責や批判、注意などからストレスを受け、体調崩す
- 真面目な方が多く、注意は普通の口調で言えば、改善の可能性あり
- 具体的な改善策の提案により、前向きに取り組むことができる

指示の仕方

- 曖昧な表現「だいたいで」「適当に」は、不安になりやすい
- 「見通しがたたない」「誰に聞いていいかわからない」もストレスに
- 一般的に1日のスケジュールや業務量を示したり、マニュアルがあると安心して取り組むことが可能

褒める

- 「丁寧ですね」「正確にできていますよ」などと伝える
- できたことを伝えることで「安心」でき、結果的に落ち着いてよいパフォーマンスで仕事に取り組める

出典：精神・発達障害者雇用支援ガイドブック（一般財団法人兵庫県雇用開発協会）

高次脳機能障がいについて

高次脳機能障がいの「症状・特性」

ケガや病気により、脳に損傷を負うと、次のような症状がでることがあります。

記憶障がい

- 物の置き場所を忘れる
- 新しいできごとを覚えられない
- 同じことを繰り返し質問する

注意障がい

- ぼんやりしていて、ミスが多い
- 複数を同時に行うと混乱する
- 作業を長く続けられない

遂行機能障がい

- 自分で計画を立てて物事を実行することができない
- 人に指示してもらわないと何もできない
- 約束の時間に間に合わない

社会的行動障がい

- 興奮する、暴力を振るう
- 思い通りにならないと、大声を出すことがある
- 自己中心的になる

出典：高次脳機能障害情報・支援センターHP（国立障害者リハビリテーションセンター）

高次脳機能障がいの「接し方、対応方法」

主な症状を理解した上で接することがポイント。（対応方法はほんの一例です）

記憶障がい

- カレンダーやメモ帳、スマホ・アプリ等を活用する（見える化）
- 頭で覚えるより体（経験）で覚えるほうが記憶が保たれやすい
- 指示は、簡潔に短く伝える

注意障がい

- 明確な工程で見通しを得てもらう
- 情報量が多い時は、重要な箇所にマーカー等の目印を
- 作業時間を多めにとって、本人が焦らないような配慮と工夫を

遂行機能障がい

- 一度のたくさんのことを取り組まずスモールステップで進める
- 余裕をもって計画を立てる
- 曖昧ではなく、具体的に伝えると見通しが持てて取り組みやすい

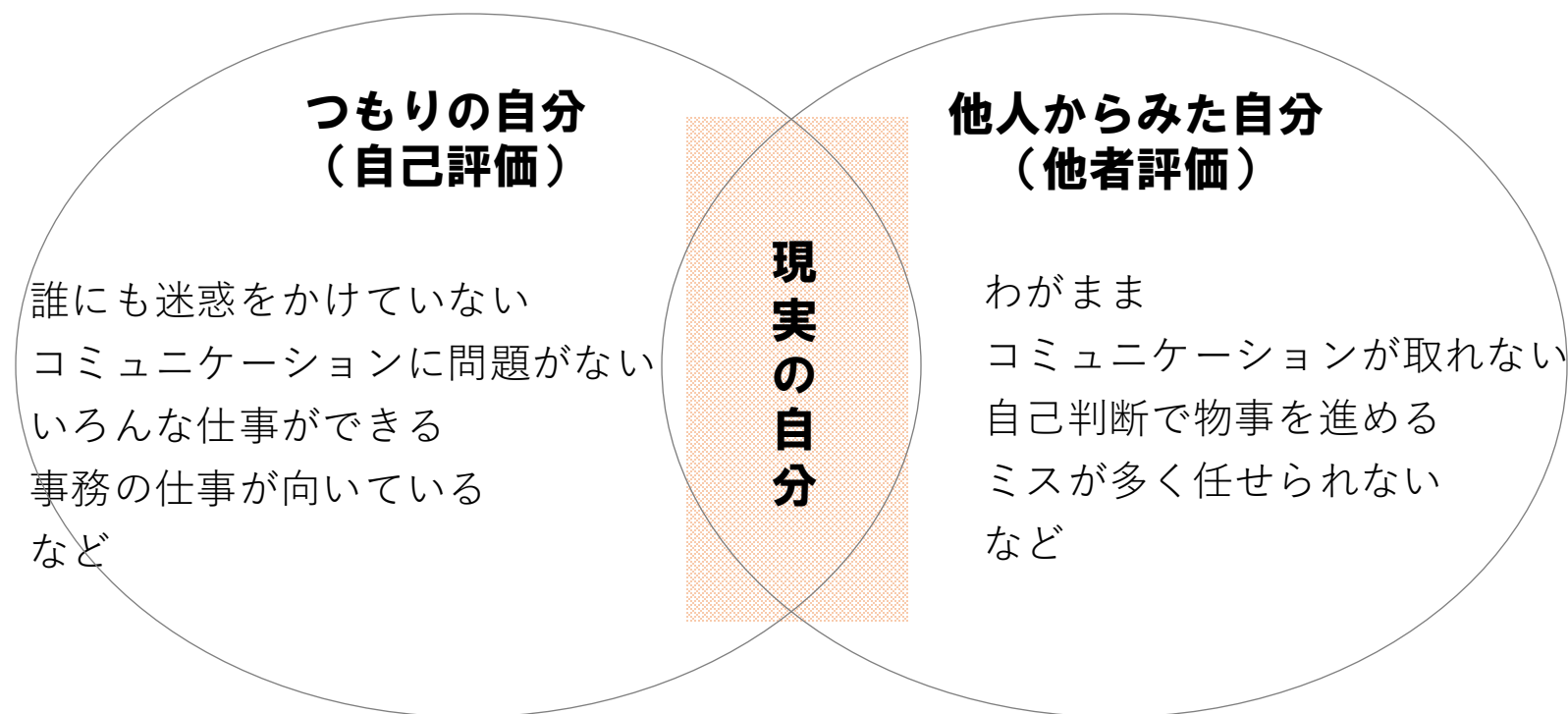
社会的行動障がい

- 感情がコントロールできないときはその場から離れる
- 深呼吸、水を飲む等で切り替える
- 本人の意見や考えを聞き、肯定的な提案を

自己理解への支援

自己理解はゆっくり時間をかけて…

- 自己評価と他者評価のズレが大きいほど、社会生活は困難になる
- 客観視が難しいこともあるため、5年、10年と時間かかることも
- 具体的な経験と適切なフィードバックがポイントである



コミュニケーションへの配慮 ①

- 共感と語彙の数
 - 気持ちの言葉はさわることができず抽象的なもの
 - そのため食い違いが起きることは多い
 - 語彙の数の問題もあるのか、いつも「楽しかった」としか表現できない場合もある
- 心がけたい一文一意
 - たくさんの情報が重なった文になると理解は難しい
 - 一文一文短く区切って、一文一意の形にするとわかりやすい
- わかりづらい二重否定文
 - 「しゃべりたくないことはしゃべらなくていい」はわかりにくい
 - 「しゃべりたいことをしゃべってください」のほうが伝わりやすく混乱も起きない（二重否定は分かりにくい）

コミュニケーションへの配慮 ②

- ストレートな表現とぶしつけな表現
 - 本人にとっては悪気がなくても、周囲からすると「失礼な人」と思われるような表現になってしまうことがある
 - 「こう言ったほうがいい」と、その都度声をかけると良い
 - 間接的な表現は理解しにくいいため、**こちらもストレートな表現を心がける**
- 沈黙は「理解できない？」と考える
 - **質問が難しかったのか？、理解できていないのか？**と考える
 - **違う表現で質問をし直してみるとどうか？**と考える
 - 質問の仕方（表現）については、再考の余地あります
- 視空間性ワーキングメモリを重視する
 - 言語性のワーキングメモリではなく、視空間性ワーキングメモリの発想で、**可視化**したほうが効果的

質問の仕方で大したこと ①

- 理解できていないかもしれないサイン
 - 質問がわからないとき、「わかりません」「もう一度言ってください」などと言ってくれればいいですが、**そうした反応を返してくれないこともある**
 - **黙って視線をそらしてしまう人**は「質問されたくないのかな？」と誤解されやすい傾向にある
 - 逆に、いつも「はい」と返事をして、**その場を凌ぐ人も多くいる**
 - また、質問とはまったく違う、自分の興味関心のある話ばかりしてしまい、**自己中心的な感じに見える人もいる**
- こうした反応は、**実は質問の内容を正しく理解できておらず、困っていることもある**
- こうしたサインを汲み取り、**質問の仕方を再考する必要がある**

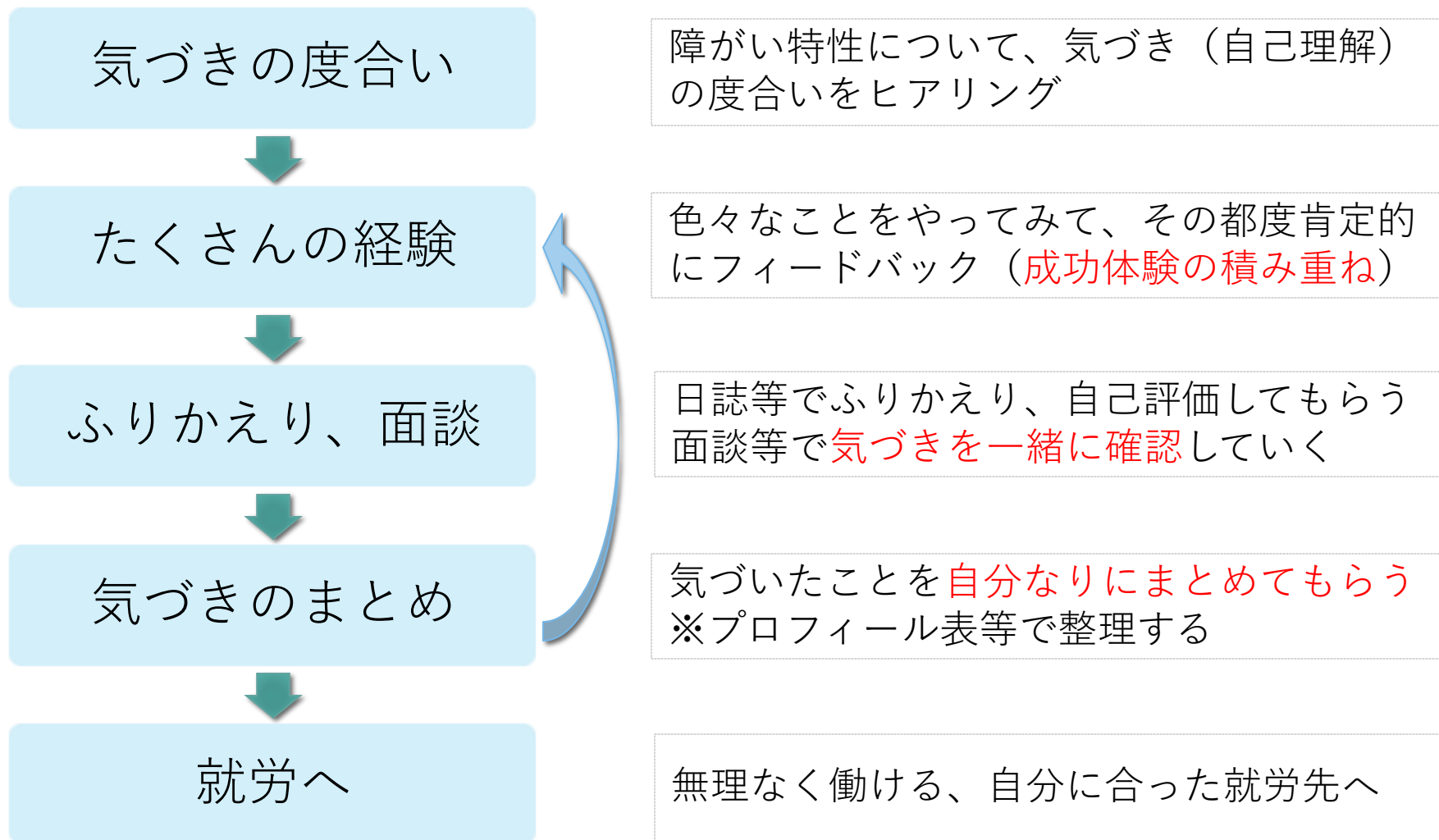
質問の仕方で大事なこと ②

- オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン
 - 自由に答えられる **オープンクエスチョン**
 - 選択肢の中から選ぶ **クローズドクエスチョン**
 - オープンのほうが本人の意思を尊重した質問の仕方
 - ただ、質問の意味を正しく理解できていないために答えがずれてしまう場合もある
 - うまく答えられない場合はクローズドで質問すると良い
 - また、言葉だけでなく、**絵や写真、文字などで選択肢を示す**と、より正しく理解することができ、共通理解を図りながらやりとりを進めることができる…、かもしれない
- **色んなやり方を試しながら、少しずつコミュニケーションを図っていくことが望ましい**

苦手なことは工夫や対処で補う

苦手なこと	工夫や対処の方法
空気が読めず、場違いな言動をしてしまう	<ul style="list-style-type: none">・ 場面に応じたルールを明確にする・ 自分専用のルールブックを作る
自分の感情のコントロールをすることが苦手	<ul style="list-style-type: none">・ 気持ちの切り替えや安心のためのグッズを持ち歩く、休憩ごとにそれらを活用する
あいまいな指示や暗黙の了解だと分かりにくい	<ul style="list-style-type: none">・ 具体的な説明があると分かりやすい (マニュアル、手順書があると助かる)
衝動的に動いてしまうことがあり、作業手順を飛ばしてしまう	<ul style="list-style-type: none">・ ひとつの手順が終わるごとに<input checked="" type="checkbox"/> (チェック) していく、セルフチェックを心がける
計画を立てることが難しい 全体を把握することが苦手	<ul style="list-style-type: none">・ 目標を確認したり、人に相談してみる・ 紙に書いて計画を立てる (スケジュール化)
感覚過敏があり、音や光の刺激に敏感	<ul style="list-style-type: none">・ サングラスをしたり、耳栓で対処する

自己理解支援の進め方



話をするときは…

【話すとき】

- 簡潔に短文で、あっさり、はっきり話す
- 声はいつもより少し小さめに、ゆっくりと話す
- ひとつの文にひとつの情報を
- 複数の感情を混じらせない
- 相手を問い詰めない
- 時にはストレートに褒める
- 「受け止めている」という意味を伝えるべく相槌を
- こちらは裏表をつくらない！

【聞くとき】

- 相手のペースに合わす、「間」ができるくらいに
- 急かさない、話の腰を折らない



さいごに

働きやすい職場環境（理想として…）

物的環境

- スケジュール等で**先の見通し**が具体的に示されている職場
- 整理統合され、**視覚的に**分かりやすい環境
- **業務マニュアル**、**手順書**、完成品の提示等、指示内容が明確で具体的な職場
- 暗黙のルールが少ない、もしくは暗黙なことをできるだけ明確に示されている職場
- 気持ちの切り替えや**クールダウン**するための休憩室等がある職場
- 音や光、臭い等の感覚刺激に対して**個別的で柔軟**な対応が検討される職場

人的環境

- 順序立ててひとつずつ説明（指示）される職場
- **肯定的なフィードバック**がされる職場
- 話すときは、**簡潔に短文で**、あっさり、はっきり、**ゆっくり話してもらえる**職場
- 急かさず、話の腰を折らず、ゆっくりと話を聞いてもらえる職場
- 従業員の個別の事情（特性等）を踏まえて、**一人ひとりを大切にされる**職場

強み × 適する仕事

強み、得意

- まじめさ、誠実、律儀
- 目で見て理解するが得意（完成品・実演・手順書を見ると理解力up）
- 細部への注意力和正確さ、慎重に取り組む力
- 定型的で反復性のある作業に対しての集中力
- 事実および数字に関する記憶力
- 作業ペースが一定していてムラがない、安定感がある

適する仕事（業務内容）

- 細部への注意と正確さが要求される仕事（検品、入力、照合作業、CAD等）
- 定型的で反復性のある仕事（仕分け、ファイリング、洗い場、清掃、組み立て、梱包等）
- 明確な手順のある仕事（ピッキング、計量、梱包、製造業務、バックヤード、発送等）